

チャルーン・ポーカパン・インドネシア(CPIN)

2018/12期 3Q(1-9月)は粗利益率が大幅改善、LQ-45種指数およびIDX30指数への組み入れへ

インドネシア | 農産物 | 業績フォロー

フィリップ証券株式会社

BLOOMBERG CPIN:IJ | REUTERS CPIN:JK

- 2018/12期 3Q(1-9月)は、売上高が前年同期比 5.1%増の 39 兆 3,850 億 IDR、営業利益は同 77.1%増の 4 兆 9,486 億 IDR、純利益は同 78.3%増の 3 兆 4,567 億 IDR だった。
- 製造原価の減少などで粗利益率が大幅に上昇。プロイラー事業が黒字に転換したほか、ひよこ事業の利益率が大幅改善した。
- 同社株式はジャカルタ LQ-45 種指数、IDX30 指数に組み入れられることとなった。

What is the news?

10/31 発表の 2018/12 期 3Q(1-9月)は、売上高が前年同期比 5.1%増の 39 兆 3,850 億 IDR、営業利益は同 77.1%増の 4 兆 9,486 億 IDR、純利益は同 78.3%増の 3 兆 4,567 億 IDR。売上が伸びたのに対して製造原価が減少したことなどにより粗利益率は 17.49%と前年同期の 12.11%から大幅に上昇。プロイラー事業が黒字に転換したほか、ひよこ事業の利益率が大幅改善。同事業の粗利益率は 20.56%と前年同期から 668bp 上昇した。

事業セグメント別の業績は以下の通り。養鶏用飼料事業は、売上高が前年同期比 0.9%減の 28 兆 6,480 億 IDR、売上総利益が同 1.5%減の 3 兆 2,448 億 IDR。プロイラー事業は、売上高が同 7.7%増の 12 兆 7,658 億 IDR、売上総利益は 1 兆 833 億 IDR と前年同期の▲5,049 億 IDR から黒字転換。ひよこ事業は売上高が同 20.4%増の 6 兆 9,468 億 IDR、売上総利益は同 11.4%増の 1 兆 4,279 億 IDR。加工食品事業は売上高が同 9.0%増の 3 兆 2,450 億 IDR、売上総利益は同 2.5 倍の 9,995 億 IDR。その他は売上高が同 15.9%減の 1 兆 9,438 億 IDR、売上総利益が同 2.5 倍の 1,308 億 IDR。

How do we view this?

2018/12 通期市場予想は、売上高が前期比 8.2%増の 53 兆 3,910 億 IDR、当期利益が同 80.1%増の 4 兆 4,970 億 IDR。ブルームバーグによると、インドネシアはイスラム教国にも関わらず鶏肉の消費量の比較的少ない地域であり、近隣のイスラム教国であるマレーシアの消費量が 1 人当たり 39kg/年に対し、4.6kg/年に留まるといふ。裕福なイスラム教国であるクウェートやアラブ首長国連合、サウジアラビアなども 16-40kg/年消費しており、需要サイドの成長余地が指摘できよう。牛肉より 63-75%安い価格や、インドネシアの所得水準の向上なども需要をサポートするだろう。IMF によると、インドネシアの 1 人当たり GDP は 2017 年の 3,876USD から 2022 年には 5,163USD に増加する見通し。同社株式は、ジャカルタ証券取引所で時価総額が大きく、高い流動性や優れた企業ファンダメンタルズを備えた 45 銘柄から構成されるジャカルタ LQ-45 種指数、および 30 銘柄からなる IDX30 指数に組み入れられることとなった。

業績推移

※参考レート 1IDR=0.0077円

事業年度	2015/12	2016/12	2017/12	2018/12F	2019/12F
売上高(十億IDR)	29,920	38,256	49,367	53,391	57,909
当期利益(十億IDR)	1,837	2,220	2,497	4,497	4,874
EPS(IDR)	112.00	135.00	152.00	272.41	294.26
PER(倍)	74.11	61.48	54.61	30.47	28.21
BPS(IDR)	778.90	862.18	956.50	1,164.26	1,355.20
PBR(倍)	10.66	9.63	8.68	7.13	6.12
配当(IDR)	29.00	56.00	56.00	63.52	94.11
配当利回り(%)	0.35	0.67	0.67	0.77	1.13

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

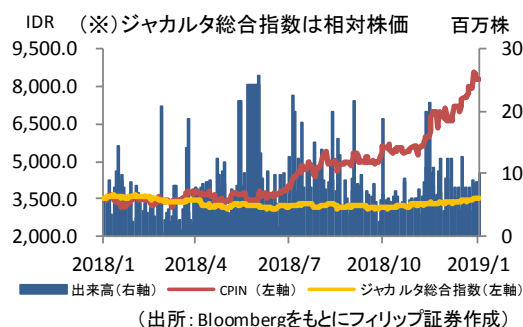
配当予想(IDR) **63.52** (予想はBloomberg)
終値(IDR) **8,300** 2019/1/21

会社概要

1972年設立。アグロビジネスのリーディングカンパニーで、主に養鶏用飼料、養鶏、加工食品を手掛ける。その他、素材や医薬品の輸入販売、プラスチック製品の製造・販売、卸売事業、輸送・流通事業なども行っている。同事業は、養鶏用飼料事業は同社最大の事業セグメントで、2017/12期では全体の売上高の49.15%を占めた。濃厚飼料、マッシュ飼料、ペレット飼料、クランブル飼料など様々な形態で提供しており、「HI-PRO」、「HI-PRO-VITE」、「BINTANG」、「BONAVITE」、「ROYAL FEED」、「TURBO FEED」、「TIJI」などのブランドで展開している。養鶏分野では、初生雛(day-old-chicks)を飼育し養鶏業者に販売するひよこ事業のほか、2016年よりプロイラーを商用向けに飼育するプロイラー事業が加わった。加工食品事業では、「Golden Fiesta」、「Fiesta」、「Champ and Okey」の4ブランドのもと、RTE食品(ready-to-eat)を中心に製造・販売している。同セグメントは同社の成長事業として位置づけられている。

企業データ(2019/1/22)

ベータ値	1.06
時価総額(十億IDR)	135,284
企業価値=EV(十億IDR)	137,057
3か月平均売買代金(十億IDR)	46.5



主要株主(2019/1)

1.Charoen Pokphand Indonesia Group PT	55.53
2.ブラックロック	1.60
3.Vanguard Group Inc	1.57

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

アナリスト

増淵 透吾

togo.masubuchi@phillip.co.jp

+81 3 3666 0707

庵原 浩樹

+81 3 3666 6980

hiroki.ihara@phillip.co.jp

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL: 03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: フィリップ証券 リサーチ部 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員 庵原浩樹

公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員補 増淵 透吾

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。